

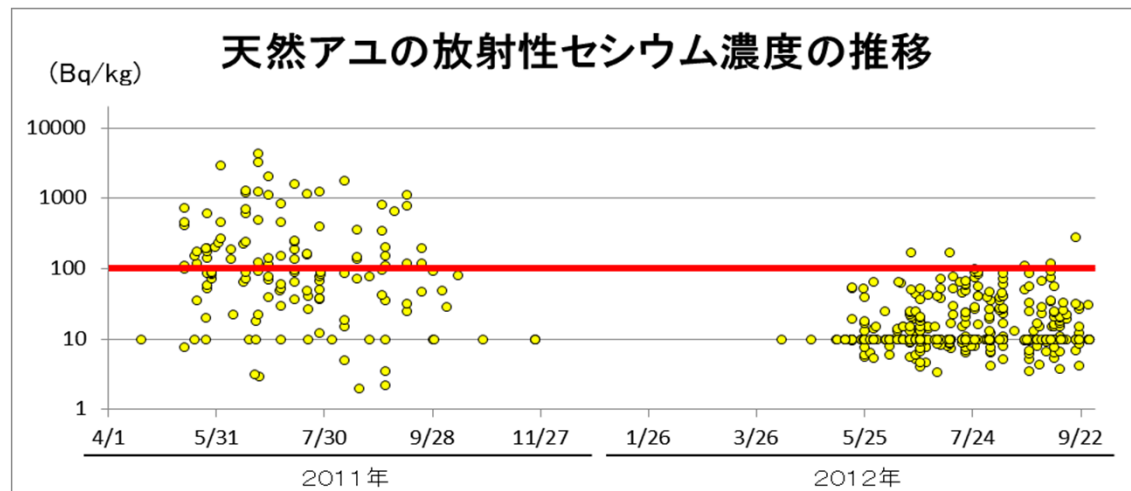
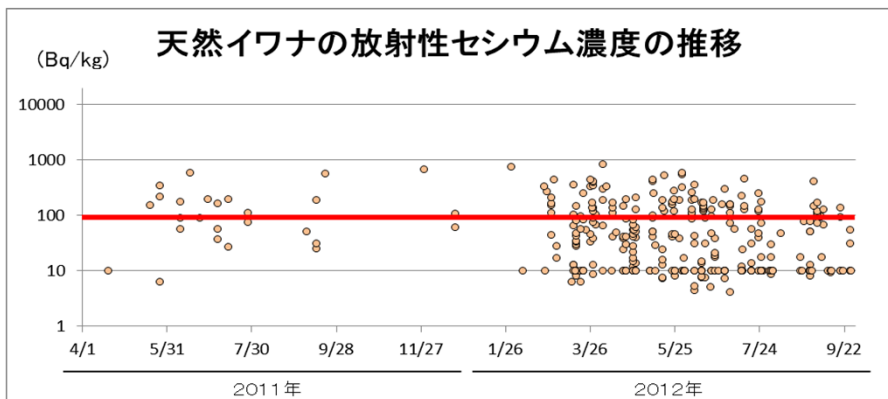
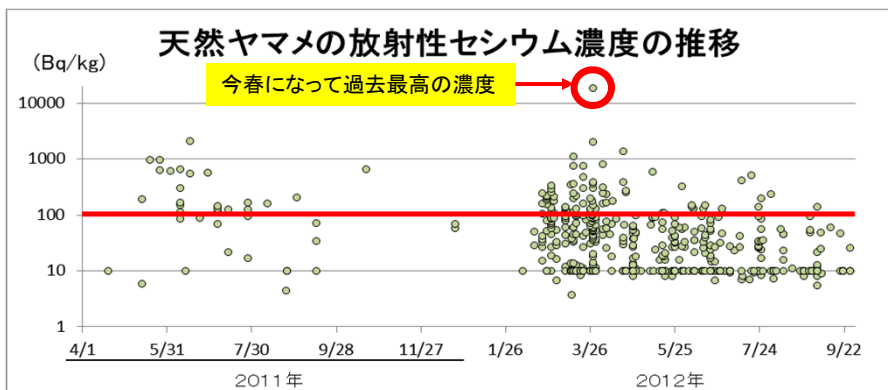
高濃度に放射性セシウムで汚染された魚類の汚染源・汚染経路の解明のための緊急調査研究

- ②高濃度に放射性セシウムで汚染された内水面魚類の汚染源・汚染経路の解明 -

配分予定額 0.6億円

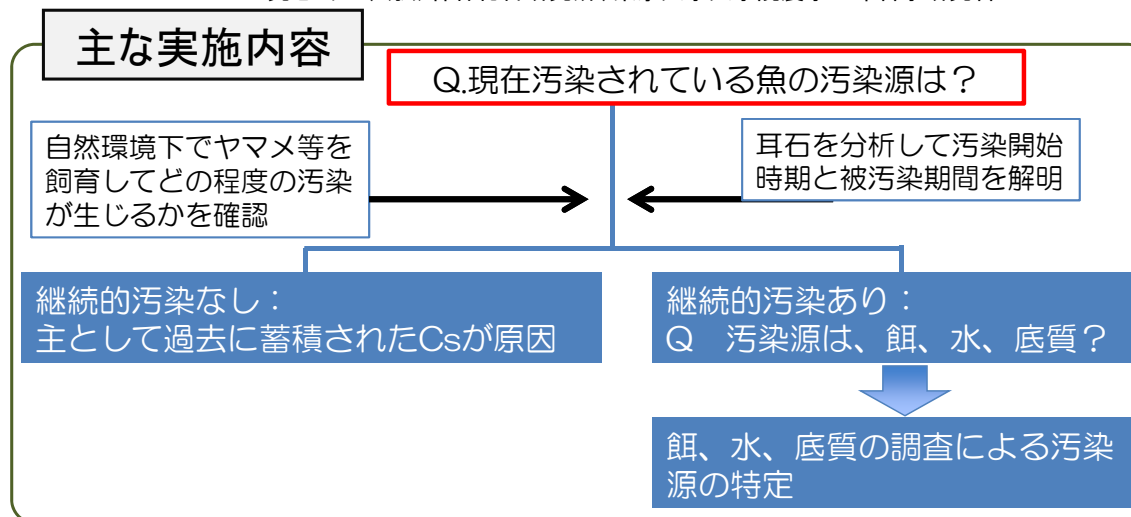
○東北及び北関東の内水面漁業においては、イワナ、ヤマメ等の放射性セシウム濃度が予想に反して低下せず、出荷制限が続いており、遊漁もできない状態。

→ 地域内水面漁業の存続や、観光業等にも関わる問題



淡水魚の汚染源及び汚染経路を解明して、内水面漁業の振興に寄与。

実施機関：農林水産省(農林水産技術会議事務局、水産庁)、栃木県、(独)水産総合研究センター、(独)森林総合研究所、東京大学大学院農学生命科学研究科



○一方、年魚であるアユでは、今春以降、放射性セシウム濃度が劇的に低下し、基準値越えはほとんど無い状況。

→「魚の世代が替われば汚染が低下するのではないか」との仮説を検証。

対策への活用例

・アユの例を参考に汚染魚を全量取り上げた後、遺伝的多様性に配慮し、現場の親魚由来の種苗を放流

・汚染源の継続的なモニタリングによる、より合理的な出荷制限の設定(解除)に寄与